

# ゆめを集め、彩る

—ドリーマーズ・イン・レジデンスの提案—



## 01 表町商店街の過去と現在

### 表町の歴史

- ・明治時代に映画館が次々とオープンし、最盛期には7館もの映画館が建ち並び娯楽街。
- ・世界3大サーカスである「木下大サーカス」が誕生した地。
- ・2000年に、岡山市活性化施策として吉本3丁目劇場が開館。

### たくさんの楽器店やライブハウス

映画と音楽を結びつけて活動する団体が生まれ、楽器店やライブハウスが増加する起源となった。さらに、音楽教室やライブバー、定期的に音楽イベントを開催する飲食店やラジオ局など、音楽要素のあるお店が密集していた。

岡駅前の大型商業施設の影響で人通りが減ったため、ほとんどの映画館や劇場がなくなり街は様変わりしていった。

「音楽の街」であるということを岡山県民にも、さらには地元の人々にさえ知られていない。

### 岡山芸術創造劇場「ハレノワ」の建設



岡山の新市民会館として、岡山芸術創造劇場「ハレノワ」が誕生した。音楽をはじめ演劇やダンスの創造の場として注目され、現代における音楽文化発展の大きなきっかけとなることが期待される。

## 02 コンセプト

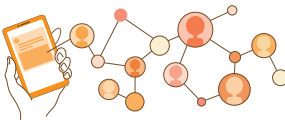
### 「新時代のエンタメの聖地」ドリーマーズ・イン・レジデンス

・ハレノワの誕生をきっかけとし、音楽や演劇に限らず笑いや芸術など、幅広いエンタメ活動で溢れる「エンタメの聖地」としての復活を目指す。夢を持った人々に、夢を叶えるための場所を提供するとともに、エンタメが持つエネルギーで表町を明るくし、賑やかで活気あふれる街へと発展させる。

### 新時代のエンタメの聖地

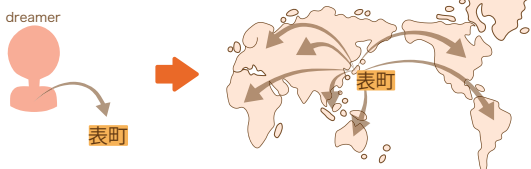
SNSの普及により、人目の多い場所でもなくても活動や作品を世に広めることができるようになった。

SNSへの投稿をメインとしたエンタメ活動に向けて練習を安く行える場所を提供する。「新時代のエンタメの聖地」のあり方を提案する。



### ドリーマーズ・イン・レジデンス

国内外からアーティストが一定期間その土地に滞在し、作品の制作やリサーチ活動を行う「アーティスト・イン・レジデンス」から着想を得て、夢を追う人々「dreamers」が様々な活動を長期的に行える場所をつくる。



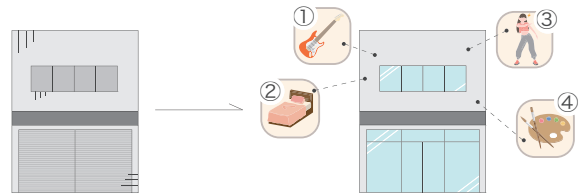
夢を追う人々が表町を訪れて様々な活動を行い、日本全国、さらには世界で活躍できるアーティストとなっていくことを目指す。

## 03 提案

### 分散型エンタメ施設、「REA」

リア  
realize real reach

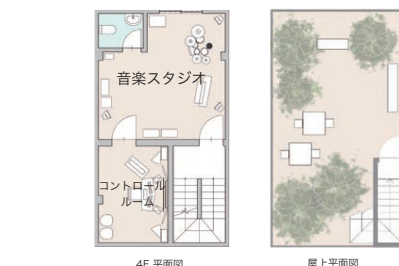
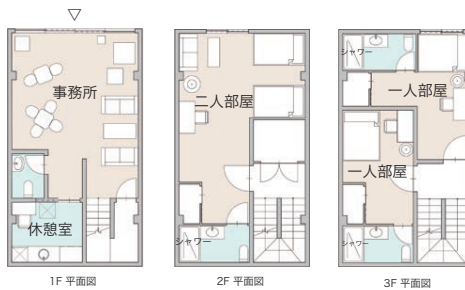
表町商店街の空きテナントや空き家を、  
①宿泊施設 ②音楽スタジオ ③ダンススタジオ ④工房 にリノベーションする。  
商店街の既存の空き家を利用することで、サスティナブルな取り組みへアプローチする。



分散型にすることで年月をかけて表町商店街全体へ広がる拡張性を持たせ、成長する街の展開を構想。南時計台付近から小規模でスタートさせ、利用者の増加とともに店舗数を増やしていき、地域に住む人々など様々な人にエンタメの聖地としての認識を持たせながら着実に形へしていく。

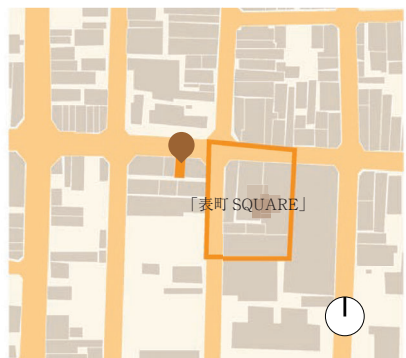
## 04 REA 1店舗目

計画敷地の建設に先駆けて、西大寺町商店街にある敷地近くの空きビルを敷地とし、REAの1店舗目を計画する。施設が完成するまでの時間を有効に活用し、体験的にREAを利用してもらい、計画敷地の建設に加えエンタメの聖地としての復活を目指す取り組みを発信することを目的とする。



屋上：屋上テラス…REAを利用する人の憩いの場  
4F：音楽スタジオ…楽器や歌などの練習ができる場  
2F、3F：宿泊施設…長期的な活動のための宿  
一般客にも開放  
1F：事務所…施設完成に向けて情報発信の場

価格設定	1週間使い放題
宿泊施設—1泊 ¥2000	¥8000
音楽スタジオ—1時間 ¥800	¥5000
ダンススタジオ—1時間 ¥800	¥5000
工房—1日 ¥500	¥3000



# 05 施設に提案する3つの空間

## 「表町 SQUARE」

スクエア

・・・計画敷地に建設する施設は、「表町 SQUARE (スクエア)」と名付け、3つの機能を持った空間を計画する。

・・・表町 SQUARE を象徴するマーク。施設の入り口、マップなどに使用する。



### ①REAの受付

分散型施設「REA」の利用のための**受付機能**。予約状況や使用状況などの情報を管理し、RIAの拠点となる。広場に面した外壁には大きなモニターを掛け、プロモーションビデオや表町の情報などを発信する。



### ②宿泊施設の浴室を集約させた銭湯

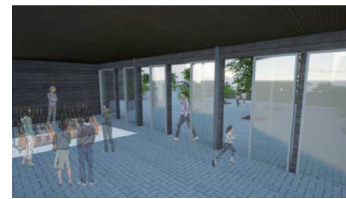
REAに含まれる宿泊施設の利用者を含め地域の人でも利用できる**銭湯**。銭湯によって新たな憩いの空間を作るだけでなく、RIAに浴室を作る必要をなくし、コスト削減へとつなげる。



### ③イベントホール&広場

表町 SQUARE が REA の拠点だけでなく、**表町全体**の拠点にもなるためにイベントなど様々な形に対応できる空間とするために**汎用性の高い広場**を設けた。この広場では、季節のイベント (七夕、クリスマス ect.) や既存のイベント (つながる市、木曜日 ect.) を開催し、たくさんの人が集まる新たな表町の拠点への展開を目指す。

また、新たなイベント「ゆめフリーマーケット」の開催を提案。使わなくなった楽器や、筆、ダンスの服などのフリーマーケットをイベントホールを用い開催する。夢を追いかける場となる表町を、夢を追いかけるきっかけとなる場所にも展開させる。



汎用性を高めるため平面的な広場。300mmのデッキを設けることで居場所になるだけでなくイベント時に様々な形に対応できる。

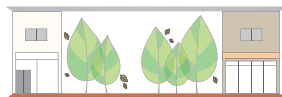
イベントホールを利用したゆめマーケット。広場に開けたホールを作ることで夏の暑い日などでも人の居場所を作る。

# 06 設計計画

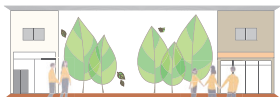
## 敷地に広がる広場と緑



西大寺町商店街はアーケードにより光が遮られ、それに加えて高密度に並ぶ建物により暗く閉鎖的な印象を与える。



低密度な空間と植栽を設けることで**開放的かつ明るい印象**を持たせる。



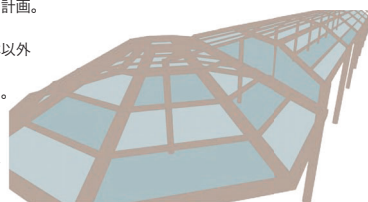
商店街の中で存在感を持ち、人が憩いを求めて集まる空間となる。

### 大屋根と調和するアーケード

木で仕上げた大屋根に合わせ西大寺町、新大寺町を結ぶアーケードの**改修**を計画。

鉄骨造ではあるが、構造体以外にも木を使用することで大屋根の雰囲気を持たせる。

ガラスを多く使用することで暗い印象から明るい印象へ。



## 敷地全体を覆う大屋根



アーケード内は**天候に関係なく**行動できるという利点を持つ。新しく計画したアーケードに対して連続するように敷地全体に大屋根をかけることでアーケードが持つ利点を失くすことなく敷地を最大限に活用することができる考えた。

### 一大屋根のデザイン



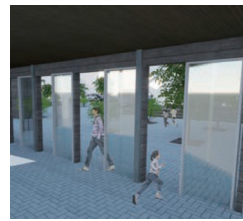
大屋根のデザインは、引きで見たデザインよりも**見上げた時のデザイン**を重視した。敷地に広がる緑や建物の外壁の仕上げに合わせ、調和するよう木で特徴的な格子状の梁を組む。その格子状にランダムにガラス張りの開口を設けることでリズムを生む。

### 連続する舗装仕上げ

敷地全体の舗装仕上げを既存の道のものと揃えることで普段は今まで通り車での走行が可能にし、境界が曖昧となり**広場の拡張性**、**屋内外の繋がり**を強めた。用途に応じて形を変えられる広場を目指した。



受付のモニターを利用したパブリックビューイング席のエリアを道まで広げ、より広く広場を利用できる。既存の道までいっばいに大屋根をかけているため、天候に左右されることなく、道を利用した広場を使うことができる。



屋内外を結んだイベントや完全に締め切り休憩所にした様々な利用方法がある。

# 07 将来計画

南時計台付近から始まり表町全体を「エンタメの聖地」として成長させるため、2040年を目標に計画を立てる。

2024.4

REA 1店舗目オープン

2025.10

表町 SQUARE 完成  
REA 6店舗同時オープン  
西大寺町、新大寺町に拡大

2030

REA 20店舗達成  
紙屋町、柴町まで拡大

2035

表町 SQUARE で、毎年恒例のエンタメイベントが開催される。

2040

REA が表町全体に拡大

REA による情報発信や、体験的な利用により、地域の人に広まっていく。表町全体で「表町 SQUARE」の建設を盛り上げていく。

表町 SQUARE のオープンにより注目度が上がる。クチコミなどで拡散され利用者も増加する。

エンタメイベントなどを通して、エンタメ活動を披露する場が増える。イベントを通してさらにエンタメの聖地として成長し、人々に浸透していく。

表町がエンタメの聖地として全国に知れ渡り、ドリマーズ・イン・レジデンスの動きが定着し活気ある町へと展開する。